

### 第3章 各産業の分析

この章では、本県の主要産業を産業中分類ごとに、販売金額、従業者数、労働生産性等から分析する。

また、観光産業について観光客数や消費額の動向等から分析する。

#### 1 農林水産業

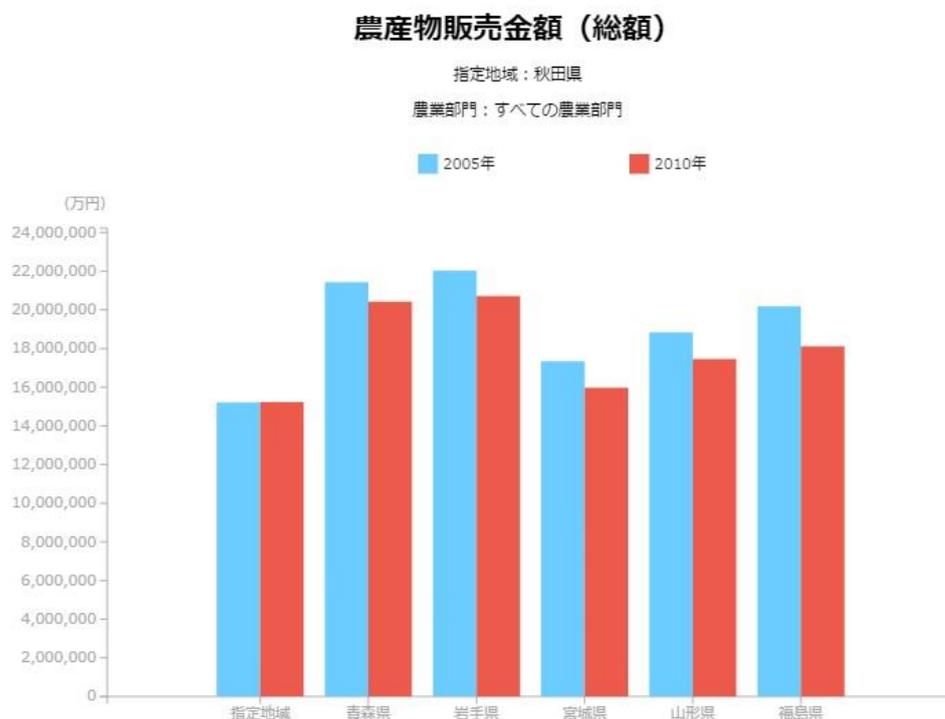
農林水産業は、付加価値額や従業者数等の産業構成の割合、各特化係数では全国水準を上回り、かつ移輸出収支が黒字と外貨を稼いでいる本県の重要な産業である。一方で、従業者数の減少、労働生産性の低さ等の課題を抱えている。

以下、本県の農業、林業、漁業について、全国及び地理的に近い東北5県との比較や、県内市町村別の状況等を分析する。

##### (1) 農業

「産業構造マップ・農産物販売金額」を見ると、2010年の農産物販売金額は1,523億850万円で全国19位、全国シェア2.1%となっており、東北では最下位で、1位の岩手県とは500億円以上の開きがある。

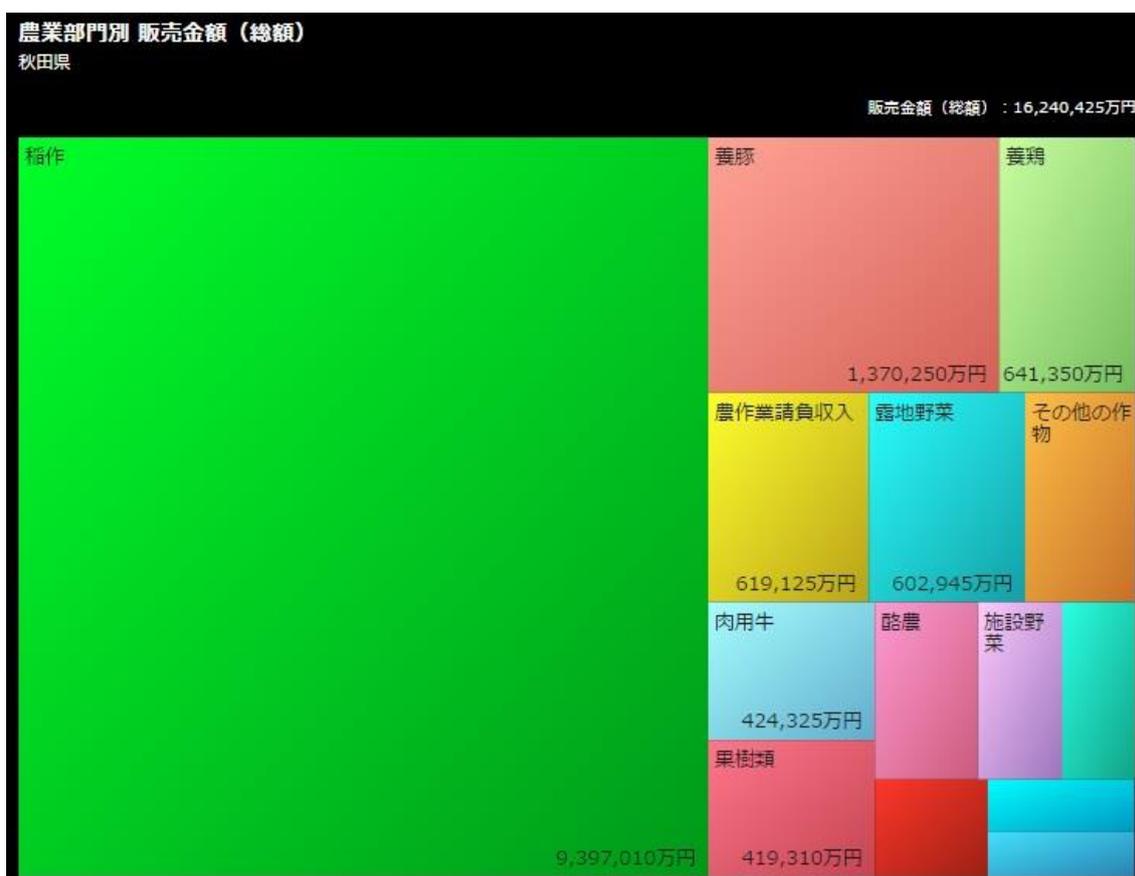
【図表20】農産物販売金額の東北6県比較



「産業構造マップ／農業／農産物販売金額／すべての農業部門／グラフを表示」

2010年の農業部門別販売金額を見ると、本県全体では「稲作」が57.8%と全体の半数以上を占めている。以降、構成割合の高い順に、「養豚」「養鶏」と続いている。

【図表 2 1】販売金額の部門別割合（秋田県）、2010年



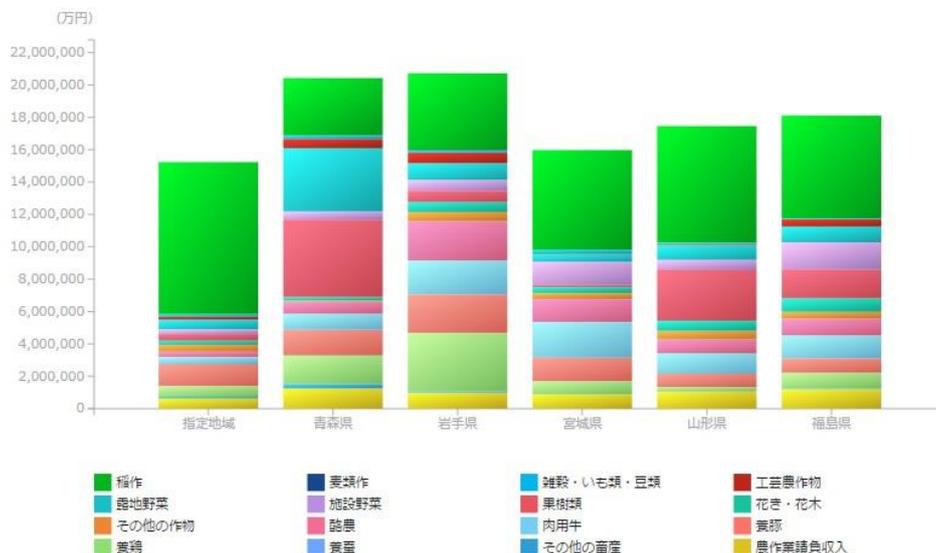
「産業構造マップ／農業の構造／秋田県／2010年」

東北6県の部門別構成を見ると、各県の稲作が占める割合は、青森県16.5%、岩手県21.8%、宮城県36.7%、山形県39.4%、福島県33.2%であり、本県の稲作偏重が際立つ。他部門を見ると、青森県、山形県は果樹類、岩手県は各畜産などと、稲作以外にも販売金額を稼いでいる部門を持っており、その差が販売金額全体の開きとなって表れている。

【図表 2 2】東北 6 県の部門別販売金額と割合

農業部門別販売金額（総額）

指定地域：秋田県



「産業構造マップ／農業花火図／2010 年／縦棒グラフで比較する」

部門別販売金額の推移（2005 年から 2010 年）を見ると、販売額全体では横ばい推移の中、本県の主要作物である「稲作」は約 22 億円減少している。

また、「養豚」は約 16 億円増加、「肉用牛」は約 0.4 億円の増加、「養鶏」は約 3.6 億円の増加、「露地野菜」は約 0.6 億円の増加となっている。

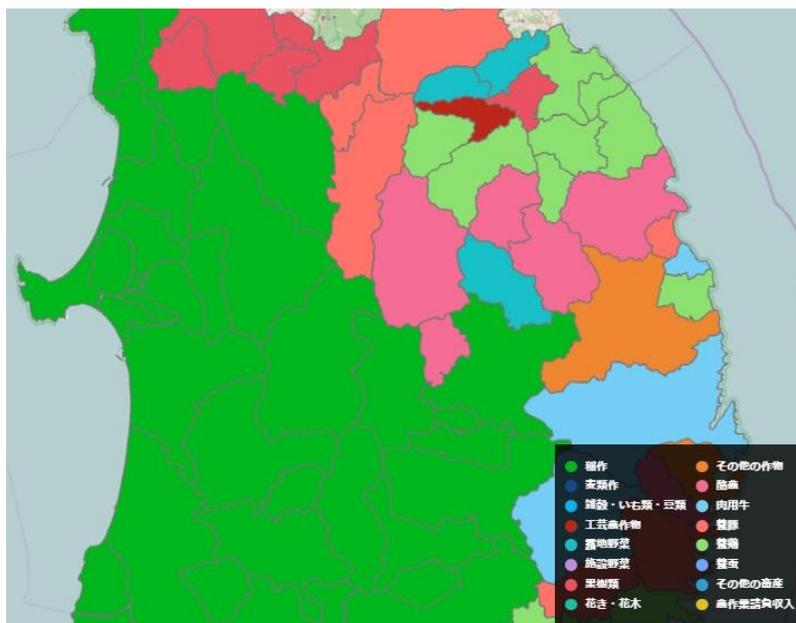
【図表 2 3】秋田県の部門別販売金額（2005 年と 2010 年）

部門別販売金額（秋田県）	2005年	2010年	差異
稲作	9,616,490	9,397,010	▲ 219,480
麦類作	2,555	2,775	220
雑穀・いも類・豆類	62,980	141,165	78,185
工芸農作物	266,660	203,085	▲ 63,575
露地野菜	540,990	602,945	61,955
施設野菜	305,460	275,205	▲ 30,255
果樹類	428,520	419,310	▲ 9,210
花き・花木	262,065	240,115	▲ 21,950
その他の作物	335,920	432,535	96,615
酪農	343,075	338,960	▲ 4,115
肉用牛	420,430	424,325	3,895
養豚	1,209,355	1,370,250	160,895
養鶏	604,450	641,350	36,900
養蚕	30	0	▲ 30
その他の畜産	93,265	122,695	29,430
分類不能	721,955	619,125	▲ 102,830
農作業請負収入	983,875	1,009,575	25,700
合計	16,198,075	16,240,425	42,350

「産業構造マップ／農業の構造」のデータを用いて作成

各市町村の主要作物を見ると、23市町村は稲作となっているが、鹿角市、小坂町は養豚となっている。また、横手市の販売金額は、稲作単体では大仙市、大潟村より少ないものの、養豚、果樹類等の他部門が多いことから、全体では本県で最も多くなっている。

【図表 2 4】市町村別の主要作物

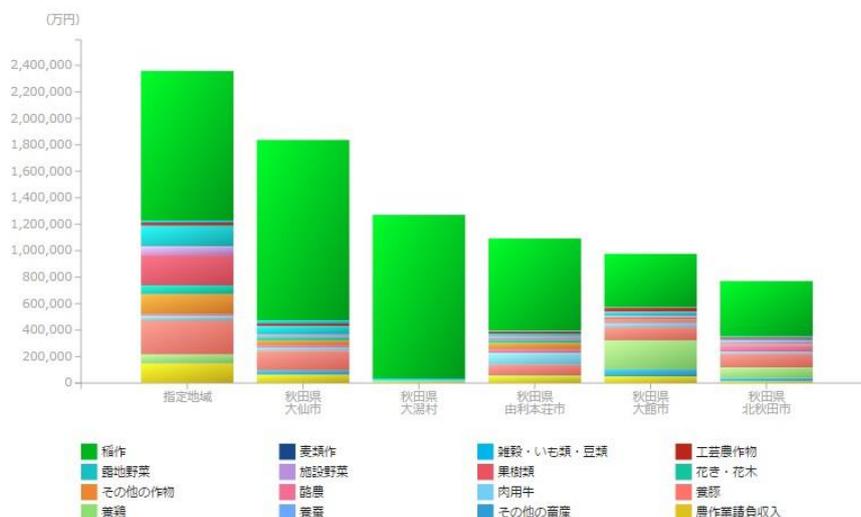


「産業構造マップ／農業の構造／主要作物をマップで表示する」

【図表 2 5】販売金額の県内上位 6 市町村と部門別割合

農業部門別販売金額（総額）

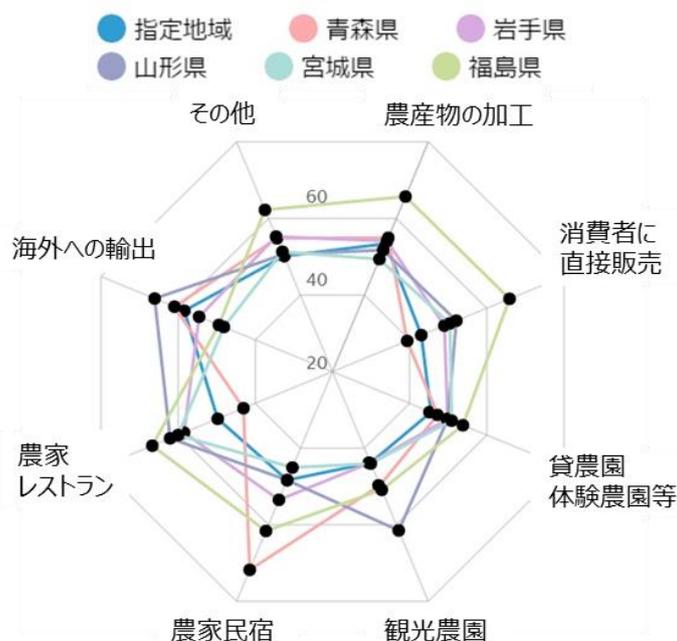
指定地域：秋田県横手市



「産業構造マップ／農業の構造／2010 年／横手市／縦棒グラフで比較する」

「産業構造マップ・農業者分析」で農業生産関連事業の実施状況を見ると、本県では、「海外への輸出」が比較的高い数値となっているのみで、「貸農園」「観光農園」「農家民宿」「農家レストラン」等の事業は他県に比べて数値が低い。

【図表 2 6】農業生産関連事業のレーダーチャート



レーダーチャートは各関連事業を実施している経営体数を偏差値化して表示  
下表では偏差値60以上のものを赤字で表示

	農産物の加工	消費者に直接販売	貸農園 体験農園	観光農園	農家民宿	農家レストラン	海外への輸出	その他
青森県	54.9	39.4	47.3	49.7	<b>71.8</b>	43.1	<b>61.0</b>	54.8
岩手県	54.1	49.0	49.9	43.8	53.5	58.5	54.6	55.3
宮城県	49.4	50.4	50.9	44.0	45.0	<b>60.0</b>	48.1	51.3
秋田県	53.4	43.0	45.5	43.8	48.3	49.7	58.4	50.2
山形県	51.8	52.1	49.9	<b>61.5</b>	48.3	<b>62.1</b>	<b>66.1</b>	50.6
福島県	<b>65.7</b>	<b>65.9</b>	53.8	50.9	<b>61.6</b>	<b>66.7</b>	49.4	<b>62.2</b>

「産業構造マップ／農業者分析／農業生産関連事業の実施状況」のデータを用いて作成

本県の農業振興においては、稲作に偏った農業構造を変え、幅広い部門での生産体制を整えるとともに、これまでも県内各地で動きのあるグリーン・ツーリズムや新品種の開発、ブランド化、地元製品の加工品製造の整備等を一層加速させる必要がある。

また、農地の集約化、大規模化、法人化等を進め、農業経営の収益力向上を図ることで、若年層の取り込みや、未経験者の農業参入等につなげ、今後の担い手を確保していくことも重要である。

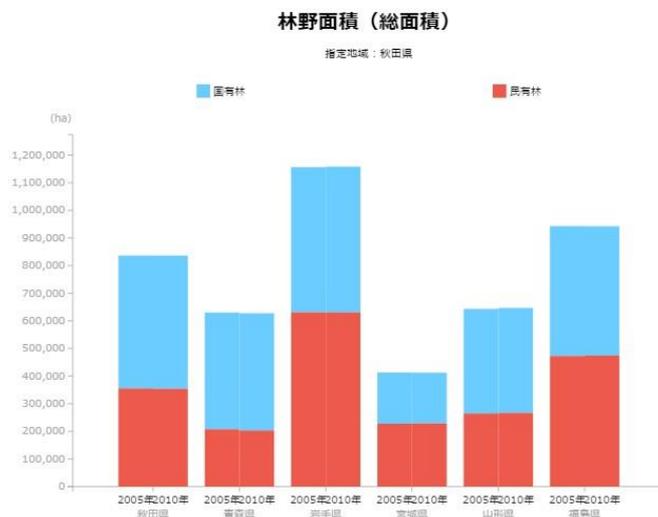
## (2) 林業

本県は、森林面積が 83 万 6 千 ha と県土の 72% を占めており、東北で 3 位、全国でも 6 位となっている。

林業総収入は、安価な輸入製品の増加等により、昭和 50 年代をピークに減少してきたが、平成 14 年頃から増加に転じている。「林業マップ・林業総収入（総額）」を見ると、2005 年から 2010 年の 5 年間では 4 割を超える増加となっている（2005 年以前の推移は、秋田県県民経済計算年報等を参照）。

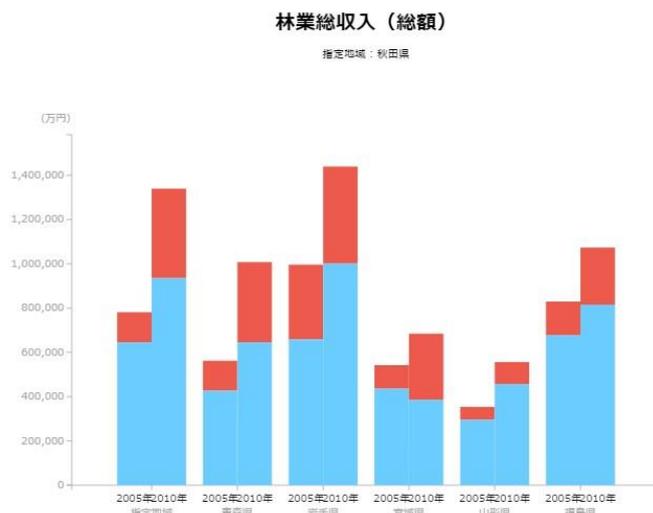
第 1 次産業全体の生産額が減少する中で林業総収入が増加に転じていることは、農業や水産業にはない林業の特徴である。

【図表 2 7】林野面積（東北 6 県）



「産業構造マップ／山林分析／林野面積・保有山林面積／林野面積（総面積）」

【図表 2 8】林業総収入（東北 6 県）



「農林水産業マップ／林業総収入／グラフを表示／林業総収入（総額）」

「産業構造マップ・従業者数（事業所単位）」を見ると、林業総収入の増加に伴って、従業者数も増加に転じており、2014年では1,542人と全国7位となっている。今後も担い手の育成、確保に引き続き取り組んでいく必要がある。

【図表 29】林業の従業者数と推移（東北6県）



「産業構造マップ／従業者数（事業所単位）／農業、林業／林業／グラフを表示」

RESASの「林業総収入」、「従業者数の推移」から本県林業が上向いていることが確認でき、さらに国勢調査による林業就業者数の推移を見ると若返りの兆し、用途別素材生産量の推移を見ると合板生産の増加等が確認できる。

わが国で国産材に注目が集まっている機会を捉え、本県においても林業から木材の製材・加工まで一貫した産業振興を行うことが求められる。

【図表 30】林業就業者数

林業就業者数		(単位：人)						
年次	総数	15～19才	20～24才	25～29才	30～34才	35～44才	45～54才	55才以上
1960	17,322	1,544	2,708	3,089	2,787	3,620	2,377	1,197
1965	12,971	398	977	1,843	2,637	4,175	2,029	912
1970	10,708	122	370	735	1,576	4,471	2,497	937
1975	10,076	49	134	355	705	3,982	3,611	1,240
1980	10,159	33	125	202	392	2,543	4,903	1,961
1985	8,015	17	105	93	194	1,142	3,963	2,501
1990	6,113	18	36	86	114	619	2,334	2,906
1995	4,011	12	45	52	111	346	1,088	2,357
2000	2,682	16	67	64	76	264	656	1,539
2005	1,923	9	57	82	78	242	380	1,075
2010	2,518	13	58	126	169	377	534	1,241

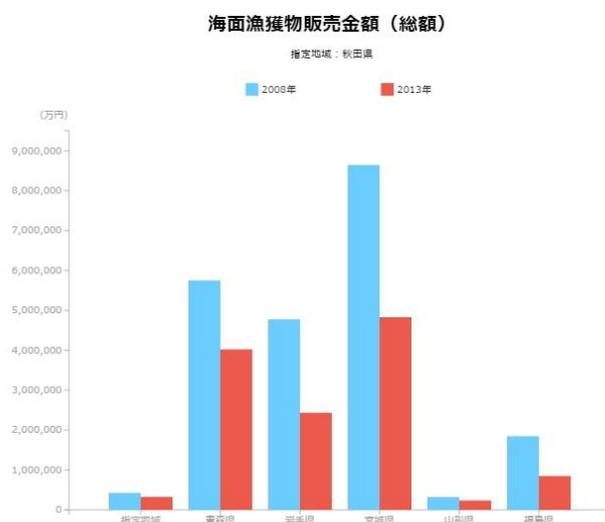
「総務省統計局 国勢調査」より作成

### (3) 水産業

本県は西側が日本海に面しており、海岸線に沿って6市2町がある。海岸線は、男鹿半島と県北部及び県南部の一部は岩礁海岸であり、これを除く大部分は平坦な砂浜海岸となっている。

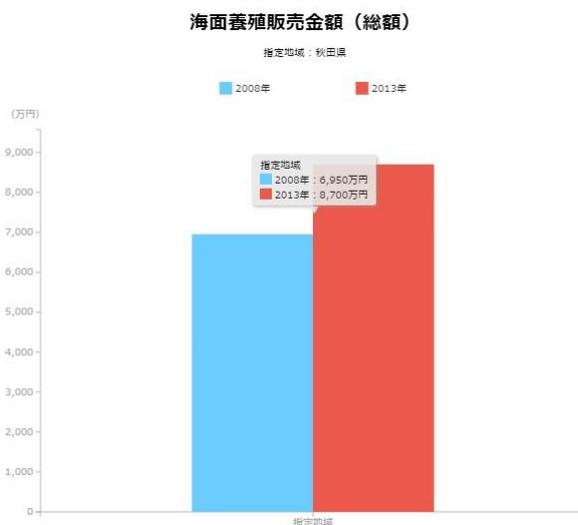
「海面漁獲物販売金額」を見ると、日本海側の2県と太平洋側に面した4県では大きな格差がある。また、水産業は海面と内水面に分かれ、さらに、漁業と養殖業に分類されるが、本県は海面漁業が95%前後を占め、内水面漁業や養殖業は極めてわずかである。

【図表 3 1】東北6県の海面漁獲物販売金額（2008年と2013年）



「産業構造マップ／海面漁獲物販売金額／グラフを表示／海面漁獲物販売金額（総額）」

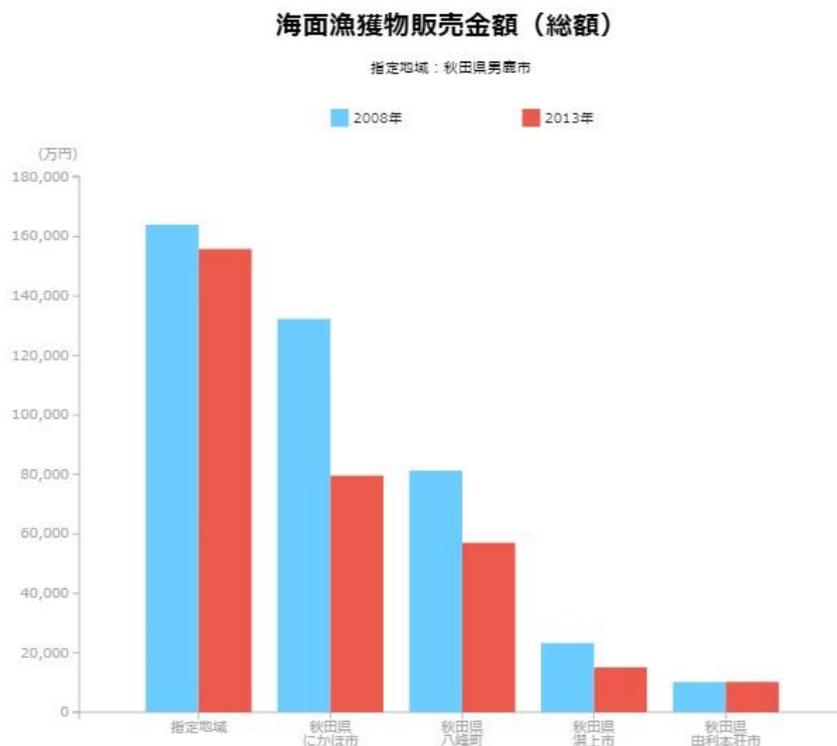
【図表 3 2】秋田県の海面養殖販売金額（2008年と2013年）



「産業構造マップ／海面漁獲物販売金額／グラフを表示／海面養殖販売金額（総額）」

県内市町村の販売金額を見ると、男鹿市が群を抜いており、次いでにかほ市、八峰町と続く。

【図表 3 3】 漁獲量の県内上位 5 市町村



「産業構造マップ／海面漁獲物販売金額／グラフを表示／海面漁獲物販売金額（総額）」

漁獲量上位の主な魚種について、東北農政局「第 60 次秋田農林水産統計年報」、農林水産省「漁業生産額」を見ると、漁獲量トップはハタハタで 1,296 トンあり、次いで、たら類、かに類、ひらめ・かれい類、ぶり類となり、これら 5 項目で全体の 5 割を占める。

本県水産業は、地理的要因もあり漁獲物は多品種少量であることからロットがまとまりにくく、他県と比べて販売を進めていく際の弱みとなっている。

一方で、ハタハタだけでなく、漁獲量が全国トップクラスのイワガキやギバサ、「北限の秋田ふぐ」「棒アナゴ」といった注目を集めている資源もあり、それらを「秋田ブランド魚種」として活用することも考えられる。

また、水産加工の基盤強化や拠点施設の整備により、地域への波及効果の高い食料品製造業との連携強化を進め、付加価値を高めていくことも重要である。

【図表 3 4】主要魚種別漁獲量及び生産額（海面・平成 24 年）

（単位：トン、百万円）

	漁獲量	構成比	生産額	構成比
海面漁業計	7,479	100.0%	3,349	100.0%
魚類	5,604	74.9%	2,313	69.1%
まぐろ類	141	1.9%	128	3.8%
さめ類	82	1.1%	7	0.2%
さけ・ます類	417	5.6%	164	4.9%
さけ類	397	5.3%	138	4.1%
あじ類	387	5.2%	38	1.1%
まあじ	387	5.2%	38	1.1%
さば類	23	0.3%	6	0.2%
ぶり類	476	6.4%	92	2.7%
ひらめ・かれい類	500	6.7%	336	10.0%
ひらめ	106	1.4%	116	3.5%
かれい類	394	5.3%	220	6.6%
たら類	845	11.3%	217	6.5%
まだら	729	9.7%	203	6.1%
すけとうだら	117	1.6%	13	0.4%
ほっけ	295	3.9%	30	0.9%
ハタハタ	1,296	17.3%	562	16.8%
たい類	258	3.4%	155	4.6%
まだい	235	3.1%	143	4.3%
ふぐ類	72	1.0%	21	0.6%
えび類	85	1.1%	104	3.1%
かに類	742	9.9%	209	6.2%
べにずわいがに	689	9.2%	149	4.4%
貝類	470	6.3%	381	11.4%
いか類	183	2.4%	105	3.1%
たこ類	269	3.6%	154	4.6%
海藻類	68	0.9%	49	1.5%
海面養殖業計	41	—	20	—
合計	7,520	—	3,368	—

東北農政局「第 60 次秋田農林水産統計年報」及び農林水産省「漁業生産額」より作成